しうて、一のみこむまれ給へるむめつぼをおきて、このにようごのゐ給はんを世人いかにかはいひおもふべからんと、人がたきはとらぬこそよけれなどおぼしつゝすぐし給へば、などてかむめつぼは、いまはとありともかゝりとも、かならずのきさきなり、世もさだめなきに、このにようごのことをこそいそがれめとつねにの給はすれば、うれしうて人ゑれずおぼしいそぐほどに、ことしもたちぬれば、くちをゑう覺しめす、かゝることゞももりきこえて、右のおとゞうちにまゐらせ給ことかたし、にようごの御はらからのきんだちなどもまうでさせ給はず、にようごもこゝろとけたる御けしきもなければ、一ほんのみやは、世にいふことをもりきゝ給て、さやうに覺したるにこそと、よを心づきなくおぼしきこえさせ給べし、○略中かゝるほどにことしは天元五年になりぬ、三月十一日中ぐうたちたまはんとて、おほきおとゞいそぎさわがせ給、これにつけても、右のおとゞあさましうのみよろづきこしめさるゝほどにきさきたゝせ給ぬ、いへばおろかにめでたし、おほきおとゞの ゑ給ふもことわりなり、みかどのおほんこゝろおきてを、世人もめもあやにあさましきことに申おもへり、一のみこおはするにようごをおきながら、かくみこもおはせぬにようごの、きさきにゐ給ひぬることやすからぬことに世人なやみ申て、すばらのきさきとぞつけたてまつりける、されどかくてゐさせ給ぬるのみこ、そめでたけれ、東三條のおとゞいのちあらばとは覺しながら、なほあかずあさましきことに覺しめす、

〔大日本史贊藪〕三〕藤原實頼及子弟藤原在衡傳贊

贊曰、戚畹盛則宗室衰、權臣重則朝廷輕、此必然之勢也、兼通忘友于之誼、與兼家相軋、欲使頼忠爲關白、故奪源兼明之左相、處閒散之地、而授大將於濟時、若探囊中物、此與盧從史得照義節度使何異、但從史猶有中使傳旨、而兼通則直授之、而無所顧、主上拱默、聽其所爲、群從子弟皆以性命博美官、世方以榮達貴顯爲賢、而材能操履無所稱道、○略中奔競之風、傷化壞俗、一至於此、可勝浩歎哉、